



秋田労災病院



～地域医療連携室だより～

2019.1 発行



地域医療連携室のご案内

当院では、紹介患者の受付と院内各部署との連絡調整、他の医療機関との連絡と情報交換などを中心に、病診・病病連携の充実をはかっております。中でも、紹介元医療機関から予め患者情報を入手し、受診すべき診療科・医師とスケジュール調整をする紹介システムを導入しております。

もくじ

- 2019年 年頭所感 病院長 多治見公高—2
- 治療と職業生活の両立支援について
中央リハビリテーション部 主任作業療法士 治療就労両立支援部 両立支援コーディネーター 田村 大—3
- 外来診療のご案内 —4



2019年 年頭所感



病院長 多治見 公高

新年明けましておめでとうございます。昨年を振り返りつつ、年頭のご挨拶を申し上げます。

昨年は病床削減から始まった一年でした。当院の病床数の変遷を振り返ると、昭和28(1953)年に東北労災病院分院として20床で開院し、秋田労災病院として独立した昭和31(1956)年に300床に増床しました。その48年後、平成16(2004)年に250床に削減しています。昨年、平成30(2018)年2月に3西病棟を閉鎖し200床に、さらに4月1日に194床に削減しました。病床の削減は、人口減少に伴う医療需要の変化に連動しています。

現在、わが国は人口減少・多死社会を迎えています。さらに、団塊の世代が75歳となる2025年、団塊ジュニアが65歳を迎える2040年、医療を含めた社会保障制度の維持はさらに深刻な状況となることが予測されています。就労世代の人口減少は、社会保障制度はもとより街づくりにも大きな影響を及ぼします。国も地方自治体も、その回避に取り組んでいます。その一つが、地域の病床の機能分化と適正配置の推進です。地域における病床を機能別に検討して、余剰病床を削減し、不足病床へ転換を推進する政策です。その現状と将来を可視化したのが地域医療構想であり、一昨年に全国の二次医療圏毎に策定されました。昨年は、地域医療構想調整会議で、地域医療構想の実現に向けて議論が始まりました。

このような医療を取り巻く社会情勢を背景に、秋田労災病院は「秋田労災病院2025年プラン」(病院ホームページより閲覧可)を策定し昨年3月に公表しました。続いて10月に機構本部と協議し、「秋田労災病院将来構想」を決定しました。

秋田労災病院は、この4年間「単月黒字」を目標に収支改善に努力してきましたが、達成できた月もありましたが、継続していません。このような経営状況を背景に、「秋田労災病院将来構想」では、入院診療は「神経再生医療とロボットリハを含めた、整形外科を中心とした病院」、その病棟・病床数は「150床・3病棟」と定め、外来診療では「維持透析の供給病院」として機能の充実を目指します。

“人口が減少し、患者が減少し、その結果として病院経営が悪化する”、これは日本全国で起こっていることです。無策のまま放置すると、ある日突然地域のすべての病院が閉院せざるを得ない危機が起こり、地域から医療が無くなってしまいます。突然破綻した例には、平成19(2007)年に閉院した北海道の夕張市立総合病院や、平成20(2008)年から2年間閉院した千葉県の銚子市立病院があります。一方、予測して計画し、地域の医療と雇用を守った成功例は近隣にあります。その一つが山形県酒田市で、もう一つが置賜地域です。また青森県弘前市は、市立病院と国立病院の統合を決定しています。わたしたちも大館・鹿角二次医療圏の医療を守るにはどんな施策があるのか、議論を始めるべきでしょう。その第一歩として、昨年10月に大館市立総合病院、大館市立扇田病院、北秋田市民病院、かつの厚生病院、秋田労災病院による勉強会を主催しました。酒田市病院機構栗谷理事長の講演を拝聴し、地域医療を存続させる施策について議論を行いました。

厳しい状況の中で新年を迎えました。将来の地域医療についての議論を絶やすことなく、昨年再定義した秋田労災病院のミッションの遂行を目指し(必要であれば再々定義し)、職員一同、一致団結し、地域に貢献できるよう前進する所存です。

最後になりますが、引き続きご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げますとともに皆様のご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げます。

治療と職業生活の 両立支援について



中央リハビリテーション部 主任作業療法士 田村 大
治療就労両立支援部 両立支援コーディネーター

「治療と職業生活の両立など支援対策事業」における企業アンケート調査によると、疾病を理由として1ヶ月以上連続して休業している従業員がいる企業の割合は、メンタルヘルスが38%、がんが21%、脳血管疾患が12%という結果であり、少子高齢化により労働者も高齢化して仕事を持ちながら通院治療している者や疾病のリスクを抱える労働者は増える傾向にあります。

事業場においては、健康診断に基づく健康管理や労働者の健康確保に向けた様々な取り組みが行われており、近年では厳しい経営環境の中でも、疾病・障害を抱える労働者の活用に関する取り組みが、健康経営やワークライフバランス、ダイバーシティ推進といった観点からも推進されています。その一方で、治療と職業生活の両立支援の取り組み状況は事業場によって様々であり、支援方法や産業保健スタッフ・医療機関との連携について悩む事業場の担当者も少なくありません。

当院では、治療就労両立支援部において「勤労者医療」を推進する観点から、勤労者の皆さまの健康確保並びに疾病による休業からの職場復帰及び治療と就労の両立支援に取り組んでいます。

具体的には、疾病を治療しながら職場復帰に向けてのリハビリテーションや主治医、産業医、事業場の担当者との情報交換、仕事内容の調整などを行い、支援対象者が治療と仕事を両立できるようなチームでの支援を行います。

詳細については、医事課「医療相談室」にお問い合わせください。



秋田労災病院外来診療のご案内

平成31年1月22日現在

受付時間	初診 8:15~11:00			再診 8:15~11:30	
曜日	月	火	水	木	金
内科・血液内科 [予約制] [受付11時まで]	熊谷	熊谷	熊谷 [第2、4 [睡眠時無呼吸外来]]	熊谷 診療応援医師	熊谷
内科(循環器) [予約制]	休診	休診	休診	診療応援医師 [13時30分~17時・要確認]	休診
内科(呼吸器) [予約制]	診療応援医師 [13時30分~16時・要確認]	弘前大学 [14時~17時 禁煙外来]	弘前大学 [診療日は要確認]	休診	休診
消化器科 [内視鏡検査] [予約制]	診療応援医師	休診	診療応援医師 [第2、4 要確認]	秋田大学	休診
総合診療・ 検査診断科	休診	秋田大学 [診療日は要確認]	休診	休診	休診
外科	阿部	佐藤	阿部	佐藤	阿部
皮膚科		弘前大学			弘前大学
整形外科	千葉 奥山 [~10時] 木戸 関 佐藤 [10時~12時] 加茂 [13時~13時30分]	奥山 佐藤 秋田大学	木戸 加茂	関 笠間 秋田大学	千葉 奥山 木戸 関 [~10時] 加茂 [10時~12時]
スポーツ外来 [予約制]				関 [15時~16時]	関 [14時~16時]
神経内科 [予約制] [受付13時~15時]				診療応援医師 [13時30分~]	
脳神経外科	神里	休診	神里	休診	秋田大学 [9時30分~]
泌尿器科		診療応援医師		秋田大学 [曜日変更や休診の場合あり]	
眼科 [予約制]			岩手医科大学		
耳鼻咽喉科				秋田大学[午前中]	
リハビリテーション科	秋田大学(奥山) [13時~15時]	千葉 [10時~11時]	千葉 [10時~11時]	千葉 [10時~11時]	関 [10時~11時]
歯科口腔外科	石田	石田	石田	石田	石田 秋田大学 [午前中]

◎ 診療日等、都合により変更する場合があります。

* 整形外科千葉副院長の診療は不定期になる場合があります。あらかじめご了承ください。

~秋田労災病院の理念~

当院は、勤労者や地域の人々の健康増進と疾病の予防・治療に取り組み、患者様の人権を尊重し、あたたかく、思いやりのある安全な医療を提供します。

『治療就労両立支援部』とは…

当院では脳卒中中の**治療・リハビリ**と就労（職場復帰）の両側面から患者様を支援させていただきます。患者様のサポートは、**復職コーディネーター**が中心となって医師・看護師・リハビリスタッフ等で構成された**両立支援チーム**が協働で関わっていく部署です。

お問い合わせ先

独立行政法人労働者健康安全機構

秋田労災病院 地域医療連携室

〒018-5604 秋田県大館市軽井沢字下岱30

TEL 0186(52)3131(内線2782)/FAX 0186(47)7611

診療科目

内科、糖尿病・代謝内科、消化器科、総合診療・検査診断科、外科、整形外科、神経内科、脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科、歯科口腔外科、リハビリテーション科、放射線科、麻酔科、健康診断部、勤労者脊椎・腰痛センター、スポーツ外来、治療就労両立支援部

当院HP <http://www.akitah.johas.go.jp>

当院facebook <https://www.facebook.com/AkitaRosai>

当院Twitter https://twitter.com/Akita_Rosai

秋田労災病院

検索

地域医療連携誌に御意見・御要望がございましたら御連絡ください。